

放射線の健康影響に係る研究調査事業 令和6年度年度報告書

研究課題名	放射線による健康影響不安を考慮した AYA 世代がん患者に対する包括的なピアサポート体制の構築
令和6年度研究期間	令和6年4月1日～令和7年2月28日
研究期間	令和5年度～令和7年度（2年目）

	氏名	所属機関・職名
主任研究者	佐治 重衡	福島県立医科大学 腫瘍内科学講座・主任教授
分担研究者	桜井 なおみ	キャンサー・ソリューションズ株式会社・代表取締役社長
若手研究者		

キーワード	AYA 世代、がん患者、ピアサポート
-------	--------------------

本年度研究成果

I 研究背景

AYA 世代のがん患者（15 歳以上 40 歳未満）は、患者数が少ないことに加え（罹患者数の約 2%）、病理学的分類の多様性から罹患臓器も多岐に及ぶ。そのため患者は複数の診療科や医療機関に分散し、医療の中でも社会の中でも孤立しやすく、医療と地域が連携した長期的な移行期支援が欠かせない。福島県では、これら若年世代特有の悩みに加え、放射線による健康影響不安の他、放射線影響に対する誤解や偏見への対処も考えられ、ニーズに対応したきめ細かい支援体制構築が必要である。

II 目的

本研究では、①福島県に居住、福島県出身の成人 AYA 世代がん患者が抱える放射線による健康不安などの相談ニーズを把握し、②ピアサポートの在り方を検討するとともに、③ピアサポートに関する情報発信・啓発を行い、心の健康を包括的に支援する仕組みを構築する。研究終了後も支援の輪が広げられるよう、④ピアサポート運営マニュアル、ピアサポーター養成研修資料を作成する。

AYA 世代におけるピアサポートは、「患者数が少ない⇔相談ニーズが多様」という特徴から「集約化」と「ネットワーク化」が重要である。特定の地域と病院に閉じ、特定の部位のみに焦点をあてたピアサポートは多様性に欠け、更なる孤立を招く可能性が懸念されることから、病院や地域を基盤としたピアサポートのプラットフォームをつくる。

III 研究方法

1. AYA 世代がんピアサポート体制の検討（主任研究者：佐治、分担研究者：桜井）

医療機関での対面型ピアサポート、地域でのオンライン型ピアサポートを実施、アンケート評価などを行いつつ、当事者の支援ニーズを把握した。あわせて、支える立場となるピアサポーターの養成を進め、持続的な支援体制の構築を検討した。尚、福島県内の AYA 世代がん患者に対するアンケート

調査は、福島県立医科大学倫理審査委員会の承認を得て実施された(整理番号：REC2023-084)。

2. ピアサポート活動に関わるポータルサイトの整備 (分担研究者：桜井)

広く研究班の取り組みや関連活動を紹介するポータルサイトを整備、福島県内、県外へ情報を届ける仕組みを検討した。あわせて、過去のピアサポート参加者や支援者には、メールマガジン、ニュースレターを発行した。

3. AYA 世代がん患者ニーズ追加調査 (分担研究者：桜井)

令和 5 年度に実施した福島県出身 AYA 世代がん患者ニーズ調査において、気分・不安障害のスクリーニング値 (The Kessler 6-Item Psychological Distress Scale : K6 スコア) が高い数値を示したが、福島県特有の傾向なのか、全国としての傾向なのかが不明なことから、全国の AYA 世代がん患者を対象とした WEB 調査にて実施した。尚、この追加調査は福島県立医科大学倫理審査委員会の承認を得て実施された(整理番号：REC2024-028)。

IV 研究結果、考察及び今後の研究方針

1. AYA 世代がんピアサポート体制の検討 (主任研究者：佐治、分担研究者：桜井)

- ・医療機関での対面型ピアサポートに実施については、診療科ごとの認識の違いや、公的研究としてピアサポートを実施することへの医療者側の抵抗感が大きいことが判明し、当初予定していたグループ開催から個別の患者ヒアリングへと変更した。
- ・医療機関内での対面型ピアサポートの実施が困難だった背景として、AYA 世代が複数の診療科に分散していることも要因であった。そこで、令和 7 年度は、この診療科の垣根を「AYA 世代患者支援」をキーワードにして乗り越えるチームビルディング研修を実施し、患者支援へのモチベーションと拾い上げるサポートチームをつくることを検討している。
- ・一方、オンラインでのピアサポートについては、6 月、7 月にメタバースの使用法の練習を含めたオープンスクールを開催、8 月より毎月一回開催をし、延べ 68 人が参加した。相談ニーズは仕事、家族とのことや、外見の変化への対応など生活に関するトピックが多かった。【成果報告書より】
- ・ピアサポーター養成研修会については、日本サイコオンコロジー学会の協力を仰ぎつつ、8 月 24 日 (土) 時間：13：00～17：00 に開催、12 名を養成した。

2. ピアサポート活動に関わるポータルサイトの整備 (分担研究者：桜井)

- ・AYA 世代がん患者のピアサポート活動情報や患者会検索などができるポータルサイトを作成するとともに、メールマガジン、ニュースレターを毎月発行 (AYA ノマド通信)、SNS を活用した広報、社会発信を行った。結果としては、特に SNS を活用した広報、社会発信において、申込者の 4 割が SNS (LINE3 割、X1 割など) から情報を得ているなど、オンラインピアサポートへの参加申し込みに効果が見られた。

3. AYA 世代がん患者ニーズ追加調査 (分担研究者：桜井)

- ・全国の AYA 世代がん体験者を対象に K6、ニーズ把握に必要な主要項目に絞り込んだ 30 問程度の追加調査を 2024 年 7 月 16 日～ 9 月 30 日に実施した。前回は医療者を經由して調査票を配布したが、今回調査はひろく SNS など声をかけ、合計 72 人からアンケートを回収した (登録数 90 件、回答数 72 件：回収率 80.0%)、性別は男性 5 件 (6.9%)、女性 67 件 (93.1%) となった。
- ・K6 の集計結果は、日本の一般人口における 13 点以上の割合は 3.0%となっているが、AYA 世代では 19.4%と非常に高いことがわかった。また、参考値にはなるが、昨年実施した福島県出身者の AYA 世代を対象とした同調査では、26.3%と福島県出身者は 6.9%ほど高い数値を示すことがわかった。

V 結論

アンケート調査の結果から、就職、恋愛や結婚、性生活など、AYA 世代特有の相談ニーズに加え、二次がんへの健康不安や、食生活、容姿の変化への対応（アピアランスケア）などについて話題に盛り込んだピアサポートを実施していく必要がある。治療では解決できないこれらの課題について、患者が悩み、生きづらさを抱えていることを、医療者が認知していない可能性もある。

次年度は、本研究で得られた知見や県内のデータなどを活用し、研修を通じてひろく医療者への AYA 世代支援の啓発を行い、患者をひろいあげる院内外の自発的な体制づくりを強化したい。

引用文献

なし